

どんな時でも精強維持！ LCAC訓練

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は6月2日（火）、沼津市の今沢海岸で行われた海上自衛隊のエアクッション型揚陸艇「LCAC（エルキャック）」の練成訓練取材した。

LCACは、海面に空気を吹き付けて浮上、船尾にある大型扇風機のようなプロペラで推進し、その速度は時速約90キロにも達する。また、90式戦車1両または人員約30人を積載できる能力を持ち、遠浅の海岸でも自由に行動できるなど、上陸する地形を選ばない優れた運用性能を持つ。

LCACの揚陸訓練が可能な場所は国内に3カ所あり、沼津はその内のひとつ。当日は晴れ渡る青空のもと、遠くに見えていたLCACが、ファンの轟音とともに水しぶきを巻き上げながら目の前に迫ると、勢いよく砂浜に上陸した。見学していた市民は「初めてLCACを見たが、上陸する姿は迫力があってかっこ良い。汎用性があるって、災害時にも頼りになるのではないか」と話し、訓練の様子に見入っていた。

今回撮影した動画は、静岡地本ホームページで公開予定であり、予告版を地本公式ツイッターで配信している。

静岡地本は今後も、一人でも多くの県民に自衛隊への理解を深めてもらうため、積極的に各種訓練の様子を取材し配信に努めていく。



広報官が空自T-7練習機を体感

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は6月11日（木）、航空自衛隊静浜基地（焼津市）において、広報官のT-7初等練習機飛行体験を行った。入隊志望者に自衛官採用制度などを説明する広報官には、陸・海・空の各自衛官が配置されており、それぞれの専門分野以外にも自衛隊に関する幅広い知識が必要とされる。今回は、航空自衛隊やパイロット教育について見識を広げるため、静浜基地の協力を得てT-7初等練習機の飛行体験を行った。

体験したのは、静岡募集案内所の広報官、青木茂久3等海曹。用意されたパイロットスーツに着替え、飛行教育群司令に挨拶をした後、体験飛行の操縦を担当する安澤元弘3等空佐から、搭乗時の注意事項や飛行ルートについて説明を受けた。

時折激しい雨が降り、強風の吹き荒れる悪天候だったものの、搭乗時には晴れ間も見え、青木3曹はヘルメットや救命胴衣等を装着し、少し緊張気味にT-7の後部座席に乗り込んだ。整備員から計器について説明を受けると、準備の整った機体はゆっくりと滑走路へ向かい、順調に離陸した。

静浜基地を出発した同機は、安倍川を通過し、静岡地本上空を旋回、清水港を抜けて駿河湾へ。安澤3佐から現在地や飛行訓練について説明を受けながら、実際にパイロット学生が訓練飛行するルートを体感した。さらに、最後は安澤3佐の粋な計らいで、雲の切れ間から上昇し、教官ならではの高度なアクロバット飛行を体験した。

基地に帰投した青木3曹は、「海上自衛隊で航空機の電機整備を担当しているので、航空自衛隊の航空機にも興味があった。T-7は操作がすべてマニュアルなので、パイロットの力量が飛行に大きく影響することが実感できた。民間とは違う、自衛隊ならではの高い技術力を習得できる場ということを、今後の採用説明で伝えていきたい」と話し、今後への意欲を見せた。

静岡地本は、今後も広報官教育に力を入れ、採用業務に邁進していく。

